報 昭和34年(1959年) 1日 屋 衆 1月 新 号 第 9 を整備し、 はこれを諒承、将来に極めり見地に立つた英断で、日 を開き、 定した。 即ち新屋会館建設委員会、 た新屋会舗は町内の希望に従って 委員会は去る十二月九日合同会議 策を立てるととになった。 動に積極的寄与を行ない 計の総指完済を期すため
液本的方 以上は建設、 い希望が持たれるに至った。 屋 である。 る について横山建設委員長は次の如 未だに実現しかねて居るものもあ 件の中充足されたものもあるが 会 舘 かねて居るもの、中の大きな問題 秋田市へ合併 年五月日吉神社境内に竣工を見 新 うる。 営を進めて来たが 語つた。 明す り四名を推薦し、氏子総代と其 を日吉神社 に取りまとめ、 業めの辨問的進展を明す σ_{j} に今後の運営に当らせる。 消極的批判もあり、難産の格好新屋会館建設については一部に 2 でしたが、 爾来十七年、 昭和十六年四月一日、 次の通り運営方針の大綱を決 主 張 、内容の充実、 高校設置の問題はその実現 今後新屋会館の所属と運営 建設委員会、 建設委員会は寄附金を早急 問題を慎重に検討した結 社会教育に、 運営両委員会の大乗 (宗教法人)に一任 生
然
呂 新屋の文化的中枢神 新 した。 わ 将来に極めて明る 当時に希望した条 本事業の完遂を 任する。 屋 運営姿局会よ 整備をはかり さらに内容 難産の格好 新生活運 0 民 日吉神社 地 新国町は 同運営 . 5 方会 四名 これ 内 多 0) C ·St. 云る十二月九日開かれた新屋会館 ばれた六名、計十名は十二月十八推腐による四名と氏子総代から選議の決定に従い、横山建設委員長 新運営委員長して、「大学会員会を開き、公 日午後六時、 ばれた六名、 理設委員会、 新運営委員氏名次の通り 容設備と改造につき討議され、 Ú, の点が強調され 南部には一校もない これ 会の胸勢と見なさなければならな 増加の一途をたどりつくあるが 年 序幕 古 田宮市邸、 常の段階に入つたことは一重に 町民各位の協力と理解の賜であ 嚴、 高橋松之助、 、店館し、 大島昌一郎、 委員長高橋多茂次郎、 然しい を推進する。 渉し売賞契約を結 ところが高校入学志説者は年々 1-----積 とも言うべき会館が順調な通 * 私立を併せて十校を数える。 高校を 新屋の文化向上のため喜と ことに四年連続豊作の影響に は好むと好まざるに限らず社 会館の構造、 常任委員 右の資金はパ なお役員決定後、 十氏が今後の運営 一回運営委員会を開き、 0 上藤コン づれも雄物川の北部で、 極的 万全の策を構する 委員長に高橋多茂次郎 宿望 運営委員会の合同会 中野卯三郎 新居会館会議室に集 計十名は十二月十 穂積幸悌、 常任委員辻永剛一 鹿渡谷市蔵、 ルプ会社と交 設備を早急に んで調 有様である。 而 歌され、次 11 24 副委員長 3 大島清 立案に 演する 采 てやみません。 今後共積極的 信する。 れて居る有様である。 ゆかりの地であり 新屋町とそ最適の地であることを て来て居る。 つ魏設して入学志認の競争激化を 渡和しようと言る気運が盛り上つ 極めて教育的で無 川翁を生んだ地であり、 し新しく高校を建設するとす 当新屋町は公益の神栗田定之兩 さてこそ秋田市に高校をもう一 このような客観的状況下に、 を望む E 芳麿 村 H 共和印刷所 印刷 決 い家庭は 明る . 定 言の好感化を与 又勤労の人変 日 朝 6 精 朝日新聞專売所 神的に れば 3



秋田市に任る高校は県立、

市

よりこの傾向

は更に
指車を
かけら

えるであろうことが考えられる。

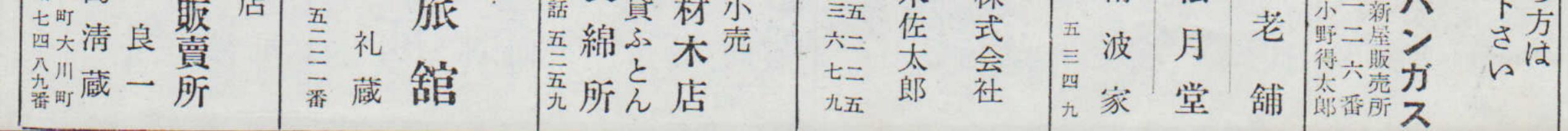
	たと思う。催し物などで遅くな なようなとき、申し込みがあれ 「海水浴場に電話設置願う 」海水浴場に電話設置願う とも考えられるので、電話局に とも考えられるので、電話局に に、一大工工ツクを割しもの。 加いして設置するよう努 展史に一大工工ツクを割しもの。		とので、「「「「「「「」」」」」 「「」」」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「 「 <th>め、次代のベルブ原木として画日本経済の発展にい言かなりと 明的成長のあるイタリーボブラ等も客与したい所存できる。 「「一」」」」「「「「「出張所の昇格について」」」」」</th> <th>育成をはかつてい 一三、〇〇〇町歩 れる目出度い年であ 一三、〇〇〇町歩 れる目出度い年であ 一三、〇〇〇町歩 しが出来、昨年にく 一三、〇〇〇町歩 しが出来、昨年にく 新年のこの新し、 新年のこの新し、</th> <th> このため当社としても、多年活協力をお願いする欠事である。 このため当社として国家に還元するは実に目覚ましく大いに敬意を表して世界をする上からは他面資林予定と聞いている。その発展振り 道義的義務があると共に肝心の資すと共に、今後尚全町一丸となつ 道義的義務があると共に肝心の資すと共に、今後尚全町一丸となつ なを確保する努力が必要である。 このため当社としても、多年活協力をお願いする欠弱である。 </th> <th> 本いにも当工場は労使の関係が 本昨秋より民間社外遺林に著手し た事に、密かにだりとしていると た事は実に喜ばしいことである。 た事は実に高ばしいことである。 た事は実に高ばしいことである。 た事は実に高ばしいことである。 </th>	め、次代のベルブ原木として画日本経済の発展にい言かなりと 明的成長のあるイタリーボブラ等も客与したい所存できる。 「「一」」」」「「「「「出張所の昇格について」」」」」	育成をはかつてい 一三、〇〇〇町歩 れる目出度い年であ 一三、〇〇〇町歩 れる目出度い年であ 一三、〇〇〇町歩 しが出来、昨年にく 一三、〇〇〇町歩 しが出来、昨年にく 新年のこの新し、 新年のこの新し、	 このため当社としても、多年活協力をお願いする欠事である。 このため当社として国家に還元するは実に目覚ましく大いに敬意を表して世界をする上からは他面資林予定と聞いている。その発展振り 道義的義務があると共に肝心の資すと共に、今後尚全町一丸となつ 道義的義務があると共に肝心の資すと共に、今後尚全町一丸となつ なを確保する努力が必要である。 このため当社としても、多年活協力をお願いする欠弱である。 	 本いにも当工場は労使の関係が 本昨秋より民間社外遺林に著手し た事に、密かにだりとしていると た事は実に喜ばしいことである。 た事は実に高ばしいことである。 た事は実に高ばしいことである。 た事は実に高ばしいことである。
 四和3	4年《秋秋日	堂 全	家新	年		959年	6 7 2 2 0 P B]
井 院長 秋 派 長 秋 田 病 治 に 大 次 治 長 (秋) (秋) (秋) (秋) (秋) (秋) (秋) (秋) (秋) (秋)	国家公務 横高	町内会連合	新屋駅田	新屋郵便局	市議会議員	市議会議員	県議会議

		新設御希望の
大助	和御後 渡辺 文五郎	日石のプロ
ŧ	肥料" 第場" 第二 五 二 九 二 の 九 二	販売責任者
討薩	有限会社佐藤組	石忠
A	社長 佐藤 寅治	高島
德次郎	事務所 T 五三〇八	精政 部
- 長 - B	東海林組	新屋鑄物工業
良	東海林憲次	社線長 佐々
- 長	T 七三八九二八	電話
豊民	株式会社	一般建築材、
i 会 長	高橋松之助	杉山田
	自"秋田駅前 宅 五三二〇六	わた ふとん 電話
園	建築材一式	
山田良彦	材木	エ 正 藤
員	電話四八八一	電
院合会	秋田出張所 高谷木材株式会社	日新プロパン
弥 三 耶	高谷清町	顧 問 川
		電
and an international of a		

8. 18

.

.



の春季 年全県大会の前哨戦と目される 監で行う選抜野球大会で再び東中 大会で延長の末六で敗れ毎

発、 手に高橋 五月十八 練習試合を行い、チームの打撃大です。それから一週間後山王中と ととではないでしようか。「基礎的 応まとまりのある守備 飾ったわけですが、その後の試合 的なバッテング練習に入つたわけ なトレバツテング けようと励むことが、 を自己の努力によつて完成に近づ くては試合も出来ない ヤットアウト勝で輝かしい緒戦を は何処と戦つても負けその内容は って球になれさせーケ月後に本格 いにふるい王回にして七対のとシ 今年度公式試合第一回は東中と 自分の与えられたボジション 八日浜田中と対戦五対二、 (勝) を捕手に起用し出 * 守備練習によ 最も大切な 陣を作らな 谷藤を投

高橋 たわけですが、いつれにしても一前後につける構想のもとに出発し ムを作らなくてはと考え谷藤 相沢を中心に山下 高橋と

割を占める

投手に

難点があり

二点 迎えたわけですが試合、勝負の八 うな内容です とられたら三点ととれる打撃のチ

きかの

天なるピンチに

たくせら

機したわけです

本荘に遠征

本莊中、

矢島中の

を行い

六対

がらマ

スクをかぶり活躍している

佐々木選手が無理な投球から腕の

宵接のために

守備庫を如何にすべ

約四十回、 次第です に日吉神社の石段の昇降数十回第 を駈足)第二は問腰を鍛えるため 了して組分によつて語球というよウサギ跳び馬とびこれらが一応終 三は腕力をつけるための腕立運動 第一ランニング 第四は腹筋運動、 • (主として道路 第五

でありましたが冬季間の一日も休います、かくして出発したチーム まぬ猛トレ ニングの内容は大体以下に記す . -ニングによつてトレ

新

過去数回の優勝の伝統を持つと

の郷土新屋

.0

幾多の大選手を送り

かぶり全自をよくリー スピー でしたが当時はコン 打されての結果に外ならないと思 しばしば好打をはなった高橋選手 その当時の投手は今年マスクを ドを落して投する好球を必 Ú し好機に なく

(3)

買第二十四回の全県優勝のチーム受けたことでしよう。これが今年 や全町挙げての誠意ある応援並び 出した名門日新、この先輩の方々 の援助、諸先生同業の熱狂的な御 隣接の豊宕中に十二対七と敗れ、 秋季新人野球大会地区予選に於て ついってみます。昨年十月秋田市なじとけた部員一同の戦績をかき に中学校野球後援会の物心技三面 の第一戦でした。 新居球史上始まつて以来と被難を **周援によって**全県優勝の大偉葉を

号

9

第

屋

日新中監督

瀧

沢

勝

男

3

ざ

な

3

I

統

優勝の戦

績を語る

11

to

2

J.

らはじめてこの本は軟養を高める 一相異のあるのは当り前である。 ないととが、 No. 建つた。 きた。 えようによつては、 対
立
や
相
異
が
あ
る
よ
う
で
あ
る
。 その運営方法等についても意見の **嬉った。**とれを我々は十分利用す 声をよく耳にする。 ら、各人が文化の何たるかを漠然 からであつた。幸いに、とにかく館の必要性が叫ばれたのは大分前 秋田市にあの百ぼけた記念館 とながらも知るに至るであろう。 る。公民館設立にあたつても、又に充実させるべく協力すべきであ べきである。 そして 設備も 徐 おくらせているかといつてなげく 我が新屋にも幸いに公民館がで 大いに利用することだ。 設備も不十分だが兎に角 如何に秋田の文化を 意見の対立や 新屋にも公民 次 若 た か

は何か 50 化の定義もはつきりせずに、その 活溌化を論することはナンセンス 人にたとえていえば、 であると。 或 Ð いは青年とは何か。 この前提となる青年や文 私はそう思わない。 教養とは何 文化と 個

そや。 は或いは数差の定義が確定してか ということがわからなけれ

報

の如く、きわ あるととを知らないわけではない 穂積ま きわめて活発なところの 無論、 豊岩の青年会

るととになる。

ることになる。だから文化といつ観や処生訓というものを身につけ

ても、

読書もあろうし、

歌や踊

D,

お花やお茶もあろうし、

演員

もあろうし、何んでも結構、とに

かく盛んにやるべきだ。その中か

一何故だろう。どうすれば活発になっか、総体的にみてのことである。 とうすれば活発にな

動とは何か、 ならぬことがあるという。青年運 文化活動とは は何年運



私に与えられたテ うととである。政治的なことは、文化活動について何か書けと マは青年運 然 世 3

いるので、 2, 青年運動にせよ、 動や文化活動を論することは極め 困難である。 うれも政治と密接に結びついて けないということである。 我々の生活の一部分であり 政治にふれずに青年運 その証拠に播職法 文化活動に

もかく てみたものの、筆者は当惑せざる 活動であろうが、所調文化人とい反対の運動――これは一種の政治 論せよといわれて、一応ひきうけをはなれて文化活動や青年運動を を得ないというものだ。それはと をみてもよくわかる。従つて政治 われる人々が積極的に参加したの 出来る丈け御注文に応じ

に豊岩、 て南部とよんでいるらしい てペンをすすめるととにする。 で他の地区よりおくれているとい の南部は青年運動や文化活 我々の居住している新屋を中心 浜田、下浜などを総称 動の面 が、

衆

昭和34年(1959年)1月1日

南

部

地

X

0

青

年

運

動

Č

て本をよもうとするような

も

0

のに役立つ、

これはダメだとい

0

連

動

r

積

的

-

新屋比內南町

2

は何ぞやということがわからなく

と思っている。

へ生観や世界観

に、自然に教養はつい

てくるも

Ø

いろう

の本をよんでいる中

とも、

人それし

~に人生観や世界

の姿でとらえ そのために公民館 乏, 同 ろこぶ ある 9 して欲しい 般住民のことをありのまく 的 カ 我々住民としては 現在上 為政者や有力者は でも改善されくはそれ ったことに 容や設備も、 どんな
迂
余
曲
折
を
経
と 一般住民とはそう とにかく ものだ。 一般住民のために 南部地区の青 の設立が阴害 我々住民は 設立前 建つ こう た

らゆる面て にまけないよう、 に与えること。 であれ、 化活動を活溌にするには、 けをきりはなしてもダメで、 展のために団結することであ めると共に、例えば公民館設立 そのためには有力者の理解を 現実にもの又は場を一 すぐれた 文化活 意見の対立を のりとえ 小異を捨て、 南部地区が他の地区 更には青年運動や 活動家を育てると 動を活発にするに 政治であれ、 南部地区 殿住民 それ あ

政治、 部が雑進した時にこそ、 の華 が咲き匂うであろう 経済その他あらゆる面で 始めて たる文

終

確信を得たわけです。 ら予選をものにすることが出来る 々と渡り合つたのですからこれ には優つていたのでむしろ喜ばし ら才月人を待たず予選大会は日 したわけです してい 用これで再出発のチー 0 結果で全県優勝は今年とそと自 Z 22 めて頑張ったことで 手の佐々木を失い たので勝負では敗れ す守備陣の不手ぎわによつて の猛練習に選手 が打たれた安打わすか一本に 日を三塁に右翼手に伊藤を た成田監督の本荘中に堂 本荘遠征では谷藤 同歯をかみ たが試合 三墨の高 よう。 ム編成を しなが な ----

智試合が必要だと考え、河辺郡の 日と切迫してくるのです 納得の行くほど感じたことでしよ と勝つて勝つこと試合を選手自身 添中と戦い三対のと約一 で勝つたのです。 本荘遠征の反省から数多く それとそやつ ケ月ぶ の練

Ð. 強豪東能代中と対戦谷藤投手の好 に招待され る全県選抜大会に本校も能 毎年六月の末か七月始めに し同じ鍋の飯を食つて 合と きによって(大会に優勝 なり市内の大原 对 $\boldsymbol{\nu}$

段とチ ムワー 0 杯でした。 クを深め誠に能

対五で敗れたが二年生な

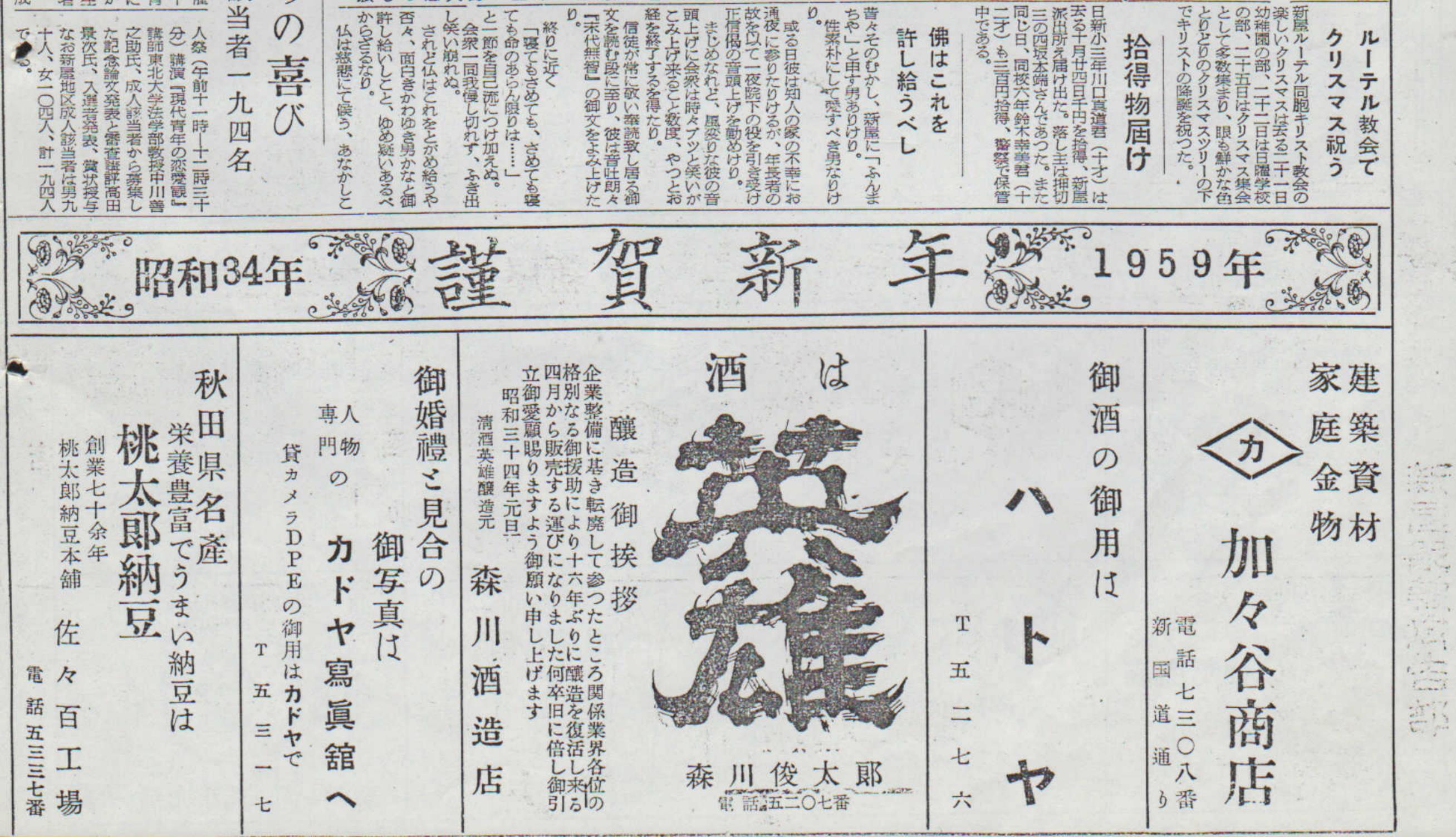
と戦い〇

代様々の感謝の気持 日は降雨のため試合 控えた七月九日和田 し引あげて来たわけ なし大会中止となつ 予選大会を今月に 次の

なる自信を納めたわけです トア ウト勝を 戦にはノ 特に高清水中との対 かるいものに リ前途をいよいよ明 と秋田市二区代表と いつた高清水中 こそれぞれ勝利を飾 し四対二、 し選手 ヒットで 一同大 した。 対〇 と対 これ

台まっこりナでた。見当中切りに輝く全県優勝えの第 始まったわけです よいよ七月三十日豊岩中を皮 小を踏む 覺岩中を五対 歩が

を練習試合の最后として予選大会 に備え整調にとれつとめ予選を待 文となった井川西中 十三日は南秋代 対のと引 手二中とれも三対二第三の準決勝 打つた梢山三塁手選手全 第二目標である全県制額の第一歩 将の劇的な三点大 は少年野球界の名門本荘中と対戦 優勝の大記録を作つたわけです 試合とも逆点勝いと 両校投手の不調から乱 らさぬチー が始められ、 けたわけです 商稿捕手の大ホーマ なる投球 も知れない 連想を目指して頑張っています 勝 そわれるととになつたのです とも 切なことではないでしよう カをすることこそ ムは目下 を持ちかえつたのです 計八本の長短打によつて七対六と 肩高橋進の三塁打、 ねばり強さで着々とばん 試合とも同じ谷藤投手の立上が し三対二で勝ち第 激を味わえる人間とそり で全県制額の偉業をなし郷 勝利の女神が頭上に輝き十年ぶり し四対〇 の不調で一点を先手され五回に る投終回起死回生の三重をはなち 時から十二時三十分まで山王体育 ら同十四年一月十五日までに出生 居住する昭和十三年一月十六日か C, による成人式は en, 間で行なわれる。 八月十五日終戦記念日の日から くような二塁打又それこそ劇的 した 肩一〇対十一で勝 第二十五回推薦出場の本校チ カ広告マ 秋田市、 07640 秋田市茨島、 瞬の感激のためにあらゆる努 名門日新中に紫紺の大優勝旗 の二塁打五本の単打によつて 式の順序は次の通りである。 八日午后一 昭和三十三年度 成 今年も倍旧の御声援をお願 意義に過したといえるでし とリ ダッ ムワークで、 不安な谷藤投手の懸命 秋田市教育委員会主催 対大曲中を六対三、 ーニングにはげみ二 一時開始く F によつて決勝があら ドされたが特 三年連続予選 んよ ヘホ 一月十五日午 一目標を成 対象は秋田市に 相沢 うちわ 八生にとつ って又相沢主 電商 今までの三 相沢の火を 戦となり 最后の決 第二は横 八生をもつ 員水 か 呈店 によう 高橋 土新 公該当者 大会 も秋 もも 意の 該 前十 感 当者 去る十月 ーてある 派出所え こみ上げ 経を終了 同じ日、 0 ちや からざい 否々、 まじめ 信偈 々その 信徒 され も 佛 た記 之助 許 リス



昭和34年(1959	年)1月1日	新屋	衆	報	·····································	9号 (4)
門高川穂斎川八佐示 脇斎村積 夢辺島 本沼 島村積 夢 銀 昇 三 府 部 一 橋 養 子 協 男 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	田內富川渡高金八山法保西村辺福 島田武保護 一方高川渡高金八山港保護 島田 一方山	赤 政 川 工 果 赤 森 社 金 坂 川 工 果 赤 森 社 坂 辺 口 戸 田 屈 売 加 剛 子 坂 三 子 本 昭 一 二 2 一 郎 子 二 郎 王 二 郎 一 代 2 一 郎 王 二 郎 王 二 郎 一 代 2 一 郎 王 王 王 王 王 王 王 王 王 王 王 王 王 王 王 王 王 王	度 在 出 野 最 石 二 門 一 一 野 員 二 門 一 一 野 員 二 一 野 員 二 一 門 一 一 一 野 員 二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	長、市政協力員各氏の住所、 大を皆さんに知つて頂くため 人を皆さんに知つて頂くため	生達に載葉された県知事があつた ではないか。文句を承知で替くよ し手がない。 なつたので あるから、自分で考 え、自分でなんでもやることだ。 え、自分でなんでもやることだ。 私は若い人達のスポーツを観る のが好きだ。確身の力を傾けてい る瞬間のポーズ程美しいものは無	
東富佐富森大若高伊 豪大若福藤 東岡市 一日 一日 一日 一日 一日 一日 一日 一日 一日 一日	藤沢 田脇田山川淵藤 コキ章みイ芳マミ 俊 ンクチえク枝キツ眞子		佐藤 芳太郎 船場町 王十嵐 文 蔵 割山 幸町 田 耕 三 勝平町 町町町	ころ密接なつながりのある各世話 氏名を次に列記します。	するものなのだ。どんな乱サ するものなのだ。どんな乱サ するものと思うがよい。 育い清新な判断と力の集中と やる思索や行動ではなく、自 やる思索や行動ではなく、自 であるう。 じたる	
こちのである。(写		キノさん、大島、 所の主婦たちに呼	わば心なき流れば心なき流	副命報調査	したも 出される皆様な したし お展びと共にした えるまではした その けて苦労を重ね そや我が国は	展開 成人どして、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

びかけ、

観音像

冨田さんらは近

会勝平班の森川

場のように汚さ

八々で附近一帯

一班の

市

政協力ぶり)

心がけて欲し

真は清掃美化

動を毎年欠か

遊山の人たち

良

一世十

2

觀音

民主日本と

しおのことと

との子が一

奉仕

民の憩いの場所

附近は風光明層

(シーズンともな

と期待 論藤沢キ

新しい人生へ

大いに皆さ ンポズボ セント日く ンは大工の

それは光に向いた人生そのも



新 報 屋 衆 額は二九、 う十五日開院、診療を始めた。 点で、 運動の方針を決めた。 万円、計一億円で堀井組が施工、 国家公務員共済組合連合会秋田病 地三千坪(三六〇万円)整地獄九 支所二階に各班長が集まり、

夢金 今年も来る十二月十二日一時から 生活にあえぐ人々のため毎年暮れ 新居婦人会は正月を控えて貧しい の四科を設け、主に長期結核患者 建延坪九六七、 院は新屋町割山の砂丘地帯に敷地 ので、内科、外科、X線科、歯科 市院は

工歌七千万円、

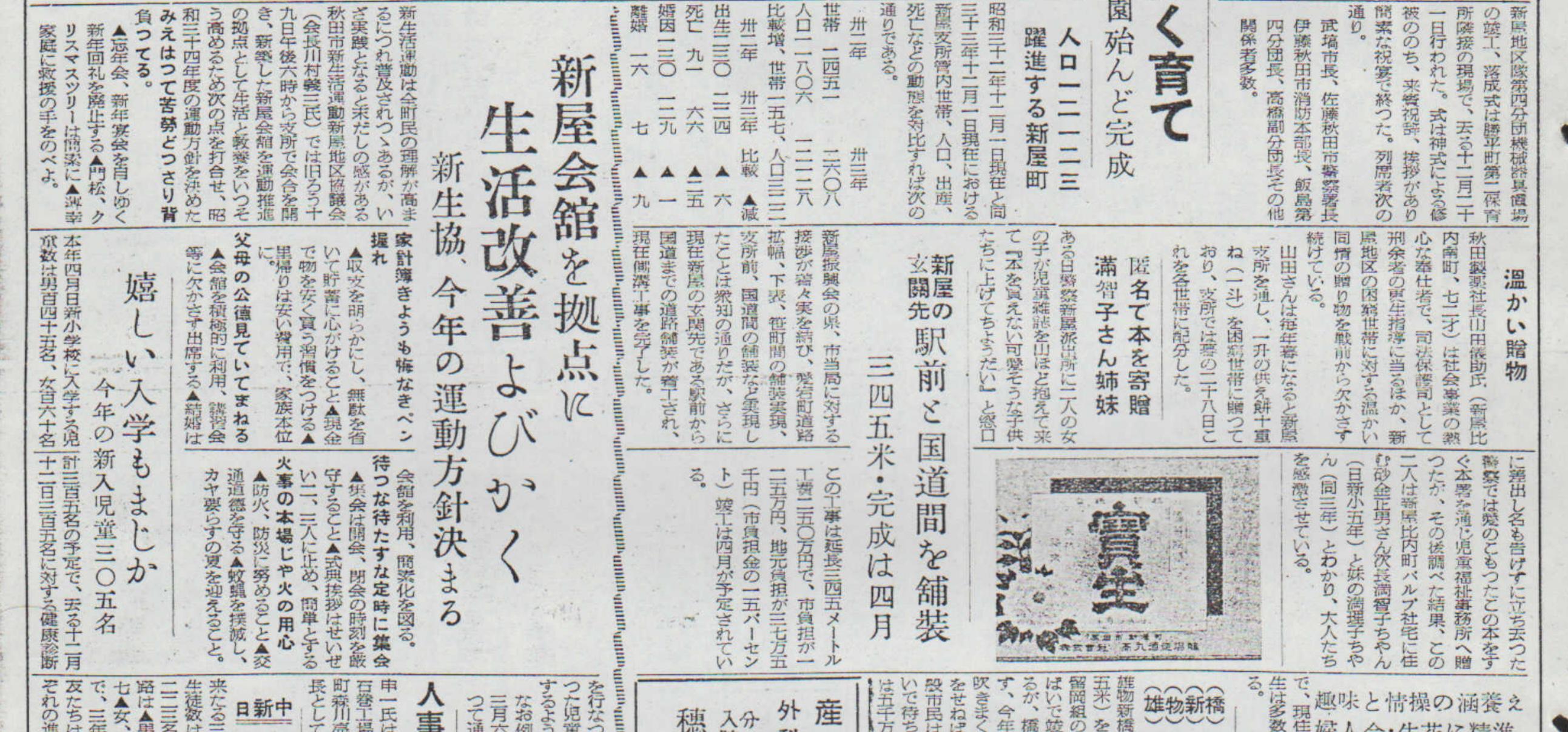
設備者三千 母子寮その他各海幸家庭八九世帯 になると
務金
連動
を
続けて
来た
が 新屋北新町、 万円)計五、四二〇万円で急ぎ工 三、五六〇万円) 備品(六〇〇〇 の県立肢体不自由児収容施設は敷 に配分された。 一万坪を求めて昨年三月六日着工 8万円、 各位と新年のことほぎを共にする ことは誠に欣快に堪えません。 たが、十月三十一日竣工、 昭和三十四年の年頭に当り町民 旧ろう県太子姫御決定のニュ 幕の扶け合い これらの金品は千秋学園、 年頭の辭 病 共 六八五円、衣類一九四 建物五六三、 栗田神社横に建設中 濟 院 由兒施設 九坪の堂々たるも 集つた募金 一務途行 新屋支所長 気を 一七坪(旧ろ F 四月開園の運び 同 院長大池弥三郎 けている。 竣工させ、 を収容するため一〇三の病床を設 ある。 更新 事を進めているが、三月末までに るやに承つておりますが、誠に既 国民に与えるものでありまして、 あらたまり、 きつゝあるのは、 み近代都市的形態に一歩々々近づ の一環としてその面目も日に日に 賀の至りであります 今春にも御成婚の儀式が取行われ スは戦後始めて心からなる喜びを ら学ぶ 容である。 **久吉氏** 益夫氏(歯科)未定で、医師六 名、看護婦十八名、專務長安田 院長は大池禰三郎博士、 法により肢体不自由児を対象と 収容児数は五〇名で、児童福祉)斎藤秀夫氏、 5 K さて我が新屋町は大秋田市振艇 (外科) 藤井十二郎氏、 治療を続けなから学習させ -大島昌一 四月一日開園の運びで ほか職員三十四名の陣 当ろ 現在十名入院してお 市街地化が一段と進 T (X線科) 北島 町民谷位のし烈 0 郎 副院長 (内科 博士 100 で約三十名の通蘭が予定されてい 児童は男四十、女三十一、計七十 圏の運びである。 千秋学園西隣り(敷地六百坪)に 精神薄弱児の通園施設として八百 棟上屋根ふきも終り、本年早々開 建設中たつた市立『南浜学園』は 万円の予算で昨年八月頃から割山 新屋北地区消防署と秋田市消防団 開 一名だが、このうち収容力の関係 御挟抄と致します。 翌する次第であります な郷土党の発露として深く敬意を あたる所存であります 新にし所員と共にその任務遂行に 面にも新風を吹き込むこととなる の一端を担当する者として気分を 重大な年でありますが、 議員の改選期にあたり、 がりの深い自治体の首長並に市会 0, てられ、 逐次増加するものと思われる。 なお通園には専用バス一台が当 る。職員は教師四名、 ジ師一名、智護婦九名、栄養士 てあげられる。 でこれらの児童は明るく強く育 レントゲン技師一名、マツサ 名である。 ポイラーマンその他で、計三四 更に本年は地方住民と最もつな 署の新築落成式 一名、調理土一名、保母三名、 新春に当り処懐の一端を申述べ 新屋北地區消防 明 外来は一日平均七、八名で * 4 近 白砂青松の静かな環境 -Z * 現在秋田の精薄 着任 Ŷ 南浜学 地方行政 医師三名 私共行政 몳

1月1日 昭和3 4年 (1959年)

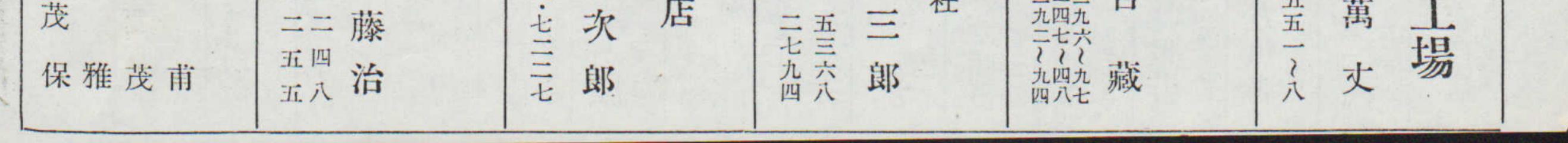
TA

号 9 第

(5)



空のたび会社の取締役、 空のたび会社の取締役、 なこのたび会社の取締役、 なこのたび会社の取締役、 なこのたび会社の取締役、 なたまして栄転。上表 である。卒業生たちの進 二三、女二一〇、計 「一一三、女二一〇、計 「一一三、女二一〇、計 「一一三、女二一〇、計 「一一三、女二一〇、計 「一一一」 「一」 「		
	水田市新屋丁 水田市新屋丁 秋田泉市田銀行新屋支出 秋田銀行新屋支出 第二二〇八 水田市新屋支出 秋田銀行新屋支出 第二二〇八	中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中



Weg.	昭和	p 3	4年	= (1	958年) 1	方1	. 白	14		¥	昕	1	月	星	1		衆			軒	1	1	ter a	-115			21-4	ich.	41	-	第		号		(6)	
つきったす 今年日午の月の子子	· 72.	あった訳ではなく、云わば偶々消	師太郎さんとはそれ程際い視交が	の後の供服を前日く書つて見れこ	るったが、いまは丸々と肥えてい	一定の	で再会した。三十何年?前の郁太大島孫太郎さんと三十何年?ぶり	ど増した。 私はある日	れる町の人々とも顔馴染になつて日か紹つにつれて利に支用を影	ない。	よ費 発す込の 限金の 底に 既付いて に に 既付いて に に 既付いて に に 既付いて に に 既付いて 	小館を焼く烟と日が晩秋の夕闇に	とかつて新屋で見た情景を追想せ	秋が訪れて小鮪が漁れる頃になる	時の自己記つつこい こっとま 年半	に肝を並べた細長い町であった。	は松林の多い	一本の不安でもあった。私の少年		A	という土地と、そここ主んでいる。強いものがあつた。ただ私は新屋		旧知の間柄たつたので私	たのと、保長達もみんな気心の知った鳥支所長は年来の碁敵であつ	-		に私は。し	1-0 ;	と、未解決の仕事を後任者に引継し、	n 1.	た時私の胸は復難	してきらったいでして用す	こ方をこえたで長うこれる寺に一でまく行詰つて、毎日追われるよう一日	の仕事が未解決の	と所めあ とお ざう こ こ よ、 合 更 」 の 思いがけない 六月の 異動で 新屋 一つ	新屋支所	思出し
	医防系医 の稿 正	支所長 大島昌一郎	ます。	ので、所手を検会ころ系の別即沼が、最近一部に人事異動もあつた	12		ら め 所 している新		-	てういい町田の手と	A. Mun					れ、いつまでも生きているてまえ	a Jose a	ている。私の生涯の中には範疇	夏しいことである。しかし私せ言	のも遠いととではないであろう。	の中から夢のように消えてしまうとは、やかてに毛の憎しい思い出	く家もなくなってしまったと	音頭に唱われるに過ぎなく	はすつかり姿を消して	ン年の頃の思い出が私には	2	も場所もはつきりしない思い出、数々の思出を呼び覚してみた。時	~疲労した頭の中	眼に	の足がりずしそうこその場を谷び一いので外は靜かだ。彼になった柿	れて	うな空からけ	であるが珍らしく書もなく、小春日が続くようになった。季節は冬日	一月も中旬が過ぎる	があった。、懐しさも一入のもの	所高橋 正	新たに
防衛のため八千万人が竹槍主義の	言えよう。問題は新聞一個の自己	る。善意に解釈すれば、節操のと	×戦のバイヤーを以て自任してい	に新聞が、今になって自由と民主	どうか。戦時中軍閥に忠誠を誓い	間が見して中でのて易を守れるか	がは民国	してはそうあるべきだが、現		戦野期まにハがハモの注説でり主機関紙はともかくとして、一般商	朱室	年頭の自戒	は昨年七月神で醸造部市カービ	であった新屋中表町、森川洒造店	戦争やり会戦整備で譲告を木上中	ネリ号酸圭台」	路西 も 住 征 主	と町民の利用を望んでいる。	は遠慮なく相談にお出で下さい	来ると言うわけ。	一様に福祉の恩恵に浴することが出し地区全体が文化的基盤となつて一	未然に防止することにより、新屋	し迫った生活問題の解決とそれを	相手となり、福祉三法に関する法	した。これは支所民生係りが相談	新岸地区社会福祉協議会はこのほ	支所民生	ほとうとと)	● 市金庫 武藤 テツー	/ 目末 川村	シ 行民党 夏山 忿	● ● ● 相原金之助	クイ 佐藤	務保長 小松千		ク 一般庶務 相原 信玄

ころうちゃ ひょうちんち

間一個の自己

が竹槍主義の

时役割を担つ

剋していると

問連の深い新

の きもらい 至ついか新と界にと主商 切	、店中 いと 田一原 2 室 3	大眼腔	
方向にひきすられ、惨々な憂き目 に逢つたことにある。一新聞に対す る人々の錯覚は『新聞は常に多い。 う安心した考え方である、吉田内 割当時、対米購和問題で同じ民主 く美を標望する政党間、学者間に を示した。最近の日ン、日中交渉 に於てもまた然り。これは党制、学者間に でいるが、いつの日か戦雲急をにし に於てもまた然り。これは党利、 でいるが、いつの日か戦雲急を しい論争が交され、大新聞社間で でいるが、いつの日か戦雲急を しい論争がうちれ、大新聞社間で でいるが、いつの日か戦雲急を しい論争が高いて である。この場合、	液、、 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	主性の整備を完了	
新聞は客観性も中立性も放棄して 一つの権力の累む方向に奉仕する であろう。化学に於ける両極因子 が互いに中間子に働きかける本質 ない。第一、第二の世界大戦で中 ない。第一、第二の世界大戦で中 ない。第一、第二の世界大戦で中 ない。第一、第二の世界大戦で中 たまうなものであろう。ジャーナ しての機能を失なうの愚と しての機能を失なうの愚と	▲ 警察日記	南部) 一般花ではビックモー(穂積 新) 一般花ではビックモー(穂積 所) がそれぞれ優秀盃を獲得、さ らに十月三十日より三日間高多茂 他二名) 地質、人質は十八名が受 し、両会とも盛況であつた。(写	花 卉 栽 培 妙 技 競 う タリャ展と菊花祭
し、主張し、如何に科学的に出判 ことの正しさを信するが故に、年頭 たる。戦禍の今になお深いことを省 である。 である。 である。	早合点して弊際に密告した怪電話 の主はだれか?さてさて色気の しいやら、テレクサイやら。 しいやら、テレクサイやら。 しいやら、テレクサイやら。 した。通りが、りの同町大門八百 足さんがいち早くこれを発見、尾 に秋田署え。鍋底景気に戸迷いし た二十二才の今さまジャンバルジ を受け恐縮の態。		
可固なカゼにも ★お正月上映々	査御案内★ : 法知) 願次嘉多		幸福は

31日~元旦(大型天然色) 嘯次喜多 道中記・季節風の彼方に 2日~3日(大型天然色) 遠州森の 十川田にく 江 東 流 即効的偉力! 先づ健康から 石松・大当り狸御殿 カゼに弱い方は早いうちにお 4 日 限 り (大作三本立) 暖簾・伊 手当をアンプル入・液体感冒薬 壽 司 那の勘太郎・杏つ子 政 智 くすりや 5 日~6日(大型天然色)忠臣藏· エスピレチン 佐々木薬舗 野を駈ける少女7日~8日(大型天然色)息子の結 婚・天龍しぶき笠 9日~10日 (大型天然色) 花笠若衆 ・花嫁の抵抗 ⑥毎日午前10時より続映 新屋映劇 新屋葉局 T 5202 屋 T 5281 新 上表町 T 7562 すゞらん通り T 7832 本店 ヒロコージ薬局 T 4591 斷然うまい!! ハキモノの パーマネント 御料理、仕出し -大判燒 婚礼着付 御用は 荷 最新の技術と完全なる設備 稻 配達致します 小松商店 旧劇場前 タケダ美容室 商 高 店 金 電話 5232番 愛宕町 T 5364 新屋劇場向い T 2152 T 5 2 2 0 1939 大 酒類 高 染 豆腐 渡印 新櫻田 山と 赤 猿 下 大澤 橋 高 三片》 三浦 Ξ 加 石 太汕 紙器 T辺屋 間 角屋 島 加 T 坂 T郎嬰 т Ш 野 T R T 5 T T TA 4

モクリーニング 愛宕町駅通り 1七八・七〇九四 五日朝 精肉店 五三三六 吳服店 友魚店 製作所 造 フバコや キャング 北京市 本田市 市 電機 七八〇八 酒 五二九八 履物店 友商事 スリヤ 七三〇四 五三七一 七〇五九 五二五三 五三四五 五三八六 五三二六 五二三四 ング 店